

「予科練」(横須賀航空隊予科練習部)は、追浜に作られた (昭和5~14年(1930~1939年))

貝山緑地内



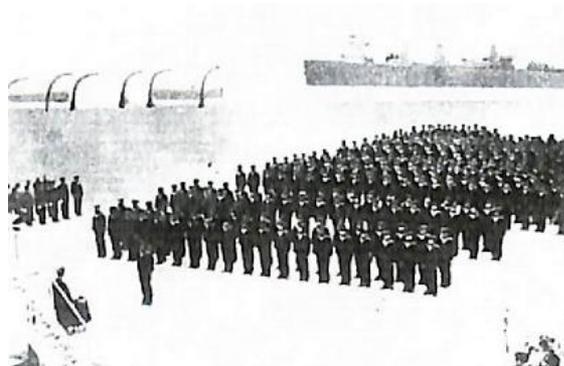
「予科練誕生之地」の碑



海軍予科練習生「鎮魂の碑」

「予科練」というと霞ヶ浦(茨城県)が有名だが、その15年の歴史の中で、9年間は、追浜で教育が行われた

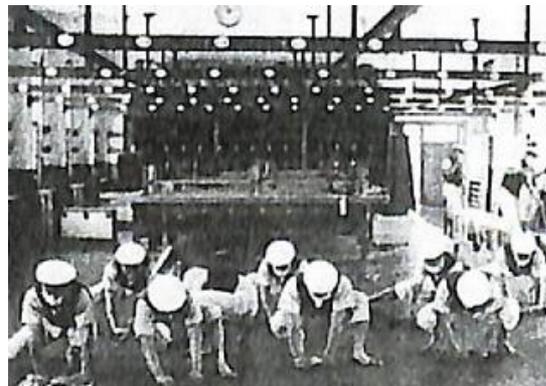
- 追浜の地から巣立って行った航空機搭乗員2520名
- 日華事変~大東亜戦争における航空部隊の中堅として活躍。
苛烈な航空戦を経て、追浜で教育を受けた修業生の**72%が戦没**



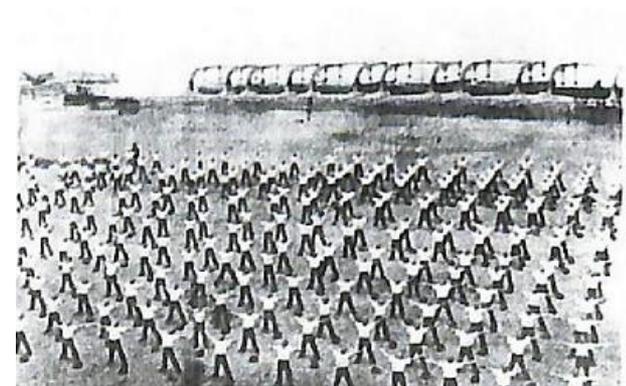
練兵場での整列



食事風景



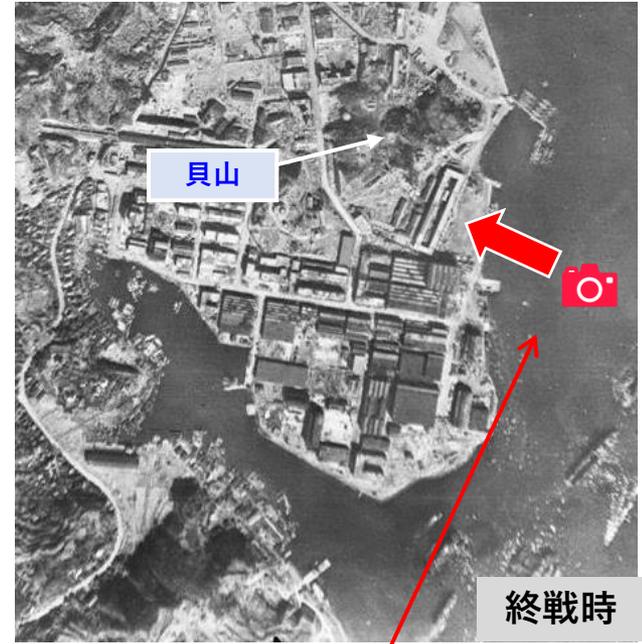
甲板掃除(海軍では「掃除」をそのように呼んだ)



体操

追浜における「予科練」では、まだ所謂「七つボタン」の制服ではなかった。

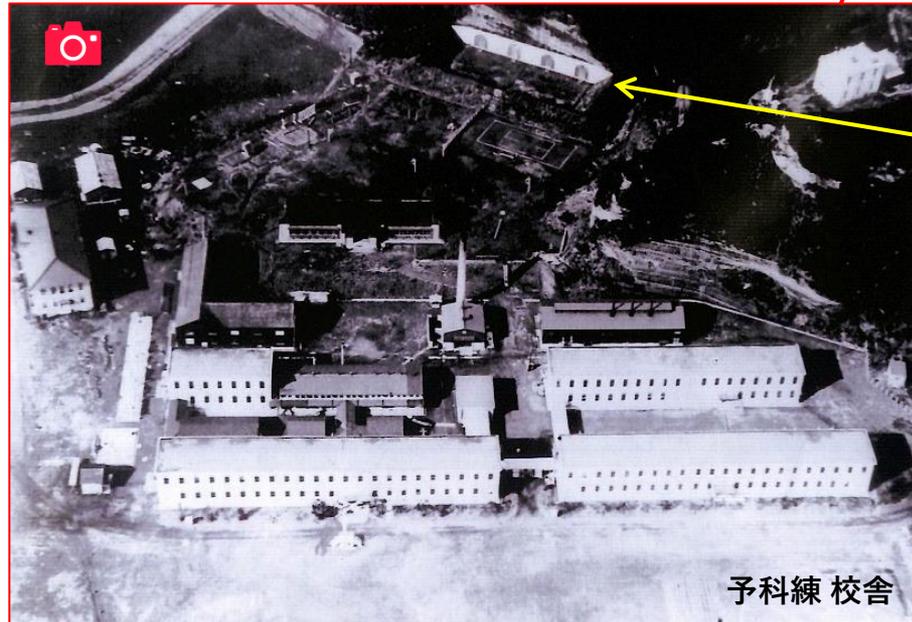
横須賀海軍航空隊 予科練習部「予科練」のあった場所



右中写真は、予科練校舎
後ろ側は、貝山(緑地)
斜面に映るトンネル状のものは、
燃料タンク壕群 (現存; 右写真)

航空戦力の急速な拡充のため
搭乗員の大量養成が必要となり、
教育環境が手狭になったことから、
昭和14年、予科練は、霞ヶ浦
(茨城県)に移転。

その後は、横須賀航空隊の隊舎
として使用された。



現存する燃料タンク壕